

議案 香発 陳情

同地区は畑かん施設が未整備であるため効率的な農業が行えません。

農業用排水施設事業を導入することにより、サトウキビ中心から付加価値の高い、花卉や果樹、施設野菜への転換が進められ、新規農業者の確保や若者の定住化など同地区の活性化が見込まれます。



村営仲泊地区土地改良事業は、昭和58年から平成2年度にかけて土地改良総合整備事業で整備された土地改良区(13.5ha)です。

現在、畑かん施設がなく干ばつ被害の影響が少ないサトウキビを中心に花卉、果樹などの栽培が行われています。

関連事業で同地区を含めた県営水質保全対策事業(耕土流出止型)が平成20年度から平成25年度まで予定されています。

悲願の農業用排水施設

公有水面埋立認可

村が管理する沖縄本島と瀬良垣島の間(海中道路)公有水面埋立免許の取扱いに関する諮問が県から村にありました。

海中道路は、昭和44年頃建造され、約35年以上経過しています。現状は、老朽化による欄干の破壊、ひび割れ等が発生し交通機能、観光の開発に支障をきたし、早期に道路整備をすることが求められています。

そこで、安全で適正な海中道路にするには、既存陸地以外に海上埋め立てが必要となりました。

村は、瀬良垣島を開発している業者と、土地の買い上げ、工事費、道の管理、同事業の有無について相談を行いました。

本会議において、土地の買い上げ、工事費はどこが負担するのかの質疑に対して、土地、工事費は開発業者が行います。管理は村が行います。また、それ以外に観光地域活性化につながるなどの意見もありました。

産科医療保障制度

恩納村国民健康保険条例の出産育児一時金35万円支給額に一部改正がありました。

それは、妊婦が分娩に係る医療事故により、脳性麻痺となった児及びその家族の経済的負担を速やかに補償する制度で、県内のおおよその分娩機関がこれに加入しています。

制度に対する掛金3万円を被保険者が負担することになります。その負担分を村が負担する制度であります。(詳しいことは、国保係で確認してください。)

経済建設民生委員会に議案が付託され、妊婦の出産時の経済的負担を軽減できるというところで、全委員の賛成で可決されました。

記事執筆委員 糸数

審査 トピックス



度重なる米軍関係事故に抗議！ 臨時議会招集

米軍所属セスナ機墜落事故・キャンプハンセン内の山火事に関する意見書と抗議決議

11月、12月と名護市と本村において米軍所属・在沖米軍による事故が発生しました。

その都度再発防止を要請してきたが、同様の事故が発生したことは、事件・事故に対する認識の甘さと再発防止対策に問題があるとして、基地問題対策委員会は委員会発議で臨時会に意見書と抗議決議を提出しました。

この2件は、名護市のサトウキビ畑にセスナ機が墜落した事故と本村の演習場内で実弾演習による山火事です。村内での事故は隣接する金武町で流弾と思われる事故が発生し、訓練中止を求めている中で訓練を強行し山

火事が発生しました。

地域住民の生命・財産を脅かす行為であり断固抗議するものです。

本会議において、「到底容認できるものではない」として全会一致で可決されました。

肥料・飼料代高騰 生産者への支援要請

県農協から、肥料・飼料の急激な高騰が生産者の「自助努力の限界を超え」ているとして、村に対し、議会が支援策を要請することを求める陳情が提出されました。

議会は経済建設民生委員会に陳情を付託。委員会では陳情を全委員賛成で採択するとともに、委員会発議で村長に対して「肥料・飼料価格高騰に関する生産者の支援の要請決議」を提出。本会議において、全会一致で可決されました。

議会では関係する機関に対し、地域住民に誠意を持つ対応、日米地位協定の抜本的な見直し・消火体制の迅速化等が早期実現されるよう強く求めました。

記事執筆委員 長浜

村では、国の補助事業(地域活性化・緊急安心実現総合対策交付金を充当し、堆肥(科学肥料を含む)・飼料の値上がり分の補助を行うため、十二月定例議会一般会計補正で予算化しました。

この補助は三月三十一日までとなっております。四月からの対応については、今後の経済・政治状況等を注視していく必要があります。

記事執筆委員 植田

海 浜 公 園 指 定 管 理 へ

指定管理者制度へ移行するため条例改正案が提出され、経済建設民生委員会での審査を経て本会議において全会一致で可決されました。



恩納村海浜公園は、平成八年に整備され、これまで村が管理していましたが、今後、指定管理者制度へ移行することにより、

維持管理経費の軽減が図られ、年間約一千万円ほどかかっていた経費が、20〜30%節減される計画です。

記事執筆委員 宮崎 写眞提供 池宮城里美

経済建設民生委員会の審査では、指定管理者に対して、水難事故を未然に防止するためのライフガードの設置や、保険加入など、安全面の徹底を要望する意見が出ました。

また、海上でのマリンスポーツエリアを利用するホテルや、漁業関係者とトラブルが発生しないよう事前に協議する必要があるのでは、との意見もありました。

恵まれた立地条件と、民間のノウハウを導入し、村民及び村外から訪れる利用者の余暇・交流ゾーンとして位置づけ、利便性の向上、周辺地域の活性化が期待できるとしています。

編 集 後 記

今まで、委員5人で各記事を担当し、委員長が編集、まとめを行っていましたが、97号からは、委員一人ひとりが、編集長としての、議会広報となり、私が今回担当することになりました。

編集が始まるにつれて、項数から始まり、原稿の配置など、読む人が読みやすい紙面づくりに奮闘しています。

これからも、村民が読みやすい、議会広報づくりに努めていきます。

さて、話は変わりますが、平成22年8月の高校総体ソフトボール男子が恩納村・読谷村の2村で開催されます。

恩納村としては、昨年の埼玉総体の視察研修から始まり12月には、実行委員会が立ち上がりました。

大会が近づくにつれて、ボランティアや村民の力が必要になると思います。

みんなの力で高校総体を盛り上げていきましょう。

99号編集長 又吉 貢

■発行：恩納村議会
住所：沖縄県国頭郡恩納村字恩納2451番地

■編集：議会広報委員会
電話 (098) 966-1199
メールアドレス：gikai@vill.onna.okinawa.jp